

別府鉄道 探訪

先月号までは別府鉄道の歴史についてお話ししてきました。今月号からは、皆さまからお寄せいただいた別府鉄道の思い出をご紹介します。今回は、北本荘に住まいの中西千代子さんよりいただいた『別府鉄道の思い出』をご紹介します。



▲土山駅のハフ7 (安保彰夫氏撮影)

私は母里(稲美町)に生まれ育ちました。母里小学校の遠足に別府の浜へ、潮干狩りに行きました。その時に、土山駅から別府港まで別府鉄道を利用したのを覚えています。貨車の後ろに1輛だけ客車がついていたのを思い出します。今は、古田へ嫁いで早46年にもなりますが、その当時、私は里帰りにはよく別府鉄道を利用したものです。子どもが小さいし、自転車にも乗れないし、また、夫婦げんかすると、すぐそばにある別府鉄道を使って帰ったものでした。義母が、別府鉄道のことを『でか』と呼んでいましたね。その『でか』が坂道をのぼる時に、『ナンナ坂、コンナ坂』とてぼって行くんや、そんな風に音が聞こえるんや』って言うてたな...と今懐かしく思い出します。田植え上がりのさなふりとか、お正月には必ず古古川で売り出しがありました。その時に、義母と『でか』に乗って買い物に行ったものでした。

※さなふり...五穀豊穣を祈願する行事。

【別府鉄道の愛称】

中西さんの思い出の中では『でか』という愛称で登場する別府鉄道ですが、実はこの他にも愛称を持っています。大中付近の上り坂で車体を大きく左右に揺らしながら登っていた姿を見て『多木のガタタン』と呼ぶ人がいたり、ピンクやオレンジの色をした可愛い車輛を見て『レカ(レールカー)』と呼ぶ人もいたそうです。

※鉄道が走っていた風景は、その当時の懐かしい景色と一緒に家族と過ごした記憶をも思い出させるようです。貴重なお便り、ありがとうございます。

鉄道まの知識



このコーナーに登場してくださる「人、仲間たち」をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。企画グループ

七宝焼教室

代表 伊藤紀代美さん 須方加代子さん

活動(結成)をはじめられたきっかけは？

虹のような色に魅せられて集まっているグループです。中央公民館が開設して以来、ずっと楽しく和気あいあいと製作に励んでいます。

グループのメンバー構成は？

若い方、中年の方、シルバークの方、年齢層は幅広くお互いによいところを学びながら続けています。集まって作品を作りながら、おしゃべりをしてほっと一息くつろぎます。

活動の内容は？

公民館まつり、文化祭、大阪美術館で行われる関西選抜七宝焼展などに出品しています。



▲美しい作品を製作する楽しみ



▲お気に入りの作品を身に着ける楽しみ

子どもたちの春休みには「七宝焼親子教室」を行いますので、参加してください。

グループのモットーは？

お部屋のインテリアに、毎日の装いに、ささやかなギフトに華やかな色を楽しんでいます。センスアップにつながればと、欲張っています。

最近の話題など

今年は4月に大阪美術館において、選抜展が行われ、多数、入選しました。皆、感激をしました。